

## 愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ

ビスマルク

この言葉は、社会主義を弾圧し、保護主義を採った政治家であるドイツの鉄血宰相ビスマルクの有名な言葉です。ドイツ統一過程において、オーストリーを含めた大ドイツ統一とオーストリーを除いた小ドイツ統一の道程でドイツ国民の意見が分かれていたとき、国家の統一は歴史的に「鉄の規律と流血」によってのみ成し遂げられる、と主張した際、甘い理想主義的なドイツ統一論者たちに対して述べた言葉です。ドイツの統一が「鉄と血」のみによって成し遂げられるという国際政治の非情さを、愚者は経験によってしか理解できないだろう、という意味です。

「歴史に学ぶ」とは、賢者は、自己の経験や先人の経験、その蓄積を分析して類型化し、未来の自分の行動に役立てることが出来る人と言えます。ここで言う「歴史」とは、人類史上始まって以来のすべての経験になるでしょう。

賢者は、自分の経験したことだけではなく、自分以外の先人が経験したことを自分が経験したのと同じように捉えられるわけですから、自分の主観を超えた判断基準と幅広い視野、視点を持っているということです。

一方の愚者は、自分自身の経験だけで、すべてを判断しようとする人と言えるでしょう。

人間が経験できることは限度がありますので、先人の経験も自分が経験したことと同じように捉えられるか否かが、賢愚を分けるということなのでしょう。

経験していないから分からないと言って開き直ったりしてしまいますが、本当は先人の経験や知恵がないかを調べてみるのが先決なのです。